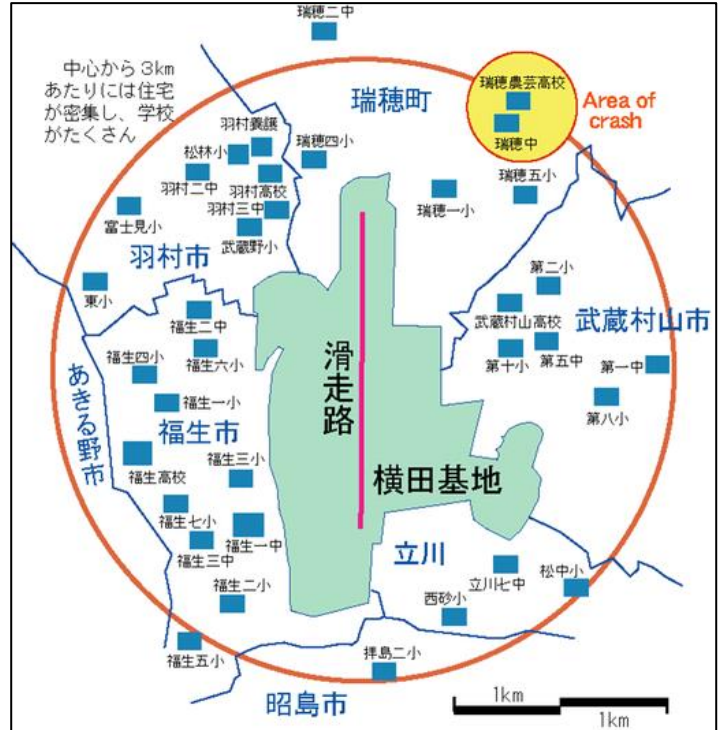


危険性を増す米軍横田基地

学校にパラシュートが落下

首都東京にある米軍横田基地

東京都民でも、東京都内に広大な米軍基地があることを知らない人が多くいらっしゃいます。およそ、一国の首都に外国の軍事基地があるのは日本だけではないでしょうか。横田基地は、5市1町（福生市、羽村市、武蔵村山市、立川市、昭島市、瑞穂町）にまたがっており、51万人が住む人口密集地のど真ん中にあります。半径3kmの範囲に35もの学校があり（上図参照）、日常的に騒音で悩まされています。



基地機能化が強化され、危険も増大

横田基地の機能強化が進んでいます。

ひとつは、日本の自衛隊を含む在日米軍全体への指令基地となったことです。現在、横田基地には米軍の第5空軍司令部と在日米軍司令部が置かれています。

第5空軍はアラスカからパナマ、カンボジア、インドネシア中東までの広い地域をその作戦エリアとしています。また、第5空軍は、世界のあらゆる地域に「緊急展開・対処」しうる戦闘機や輸送機を保有した、いわゆる「空の殴り込み部隊」ともいえるもので、横田基地には、この司令部が置かれています。

横田基地が果たす役割はアメリカの世界戦略とともに変化してきましたが、現在の機能を一言で表現すれば（青森・三沢基地と沖縄・嘉手納基地が戦闘・攻撃部隊の役割を担っていることに対し）、「輸送中継基地としての機能を果たしているとともに司令部の役割を担っている」基地であるといえます。2012年には日本の航空自衛隊航空総隊司令部及び関連部隊が、横田飛行場に移転してきました。航空自衛隊の戦闘・高射（ミサイル）・偵察・警戒の分野の指揮・管理を行う部署で、横田基地の機能強化が一層進みました。こうした一連の基地機能強化は、一たび北朝鮮など核兵器保有国と戦争になれば、真っ先に狙われる基地になったということを意味しており、核の脅威は周辺住民ばかりか東京や関東全体の住民にとって、現実的なものとなっています。

飛行訓練基地としての横田基地

二つめの基地機能強化は、米軍の飛行訓練基地としての役割も兼ねるようになったことです。10 数機連ねた編隊飛行訓練やパラシュート降下訓練や物資投下訓練が頻繁に行われています。パラシュート降下訓練などは、わざわざアメリカ本土の基地から兵士がやってきて訓練をしています。そうした中で、4月、ついに羽村第3中学校のテニスコートにパラシュートが落下するという事故が発生しました。



欠陥機オスプレイの配備を強行

三つ目の基地機能強化は、欠陥軍用機オスプレイを横田基地に配備しつつあることです。離陸・着陸時は、ヘリのようにローターの角度を垂直に立て、前方に傾ければ固定翼機のように飛行ができるため、固定翼機のスピードと航続距離、ヘリの小回りのよさや垂直発着をあわせもつとされています。しかし、ローターのモードを切り替える際に起こる気流の変化に弱く、事故を頻発させています。未亡人製造機という異名がついているほどです。

横田基地に配備される空軍の CV-22 オスプレイは、海軍の MV-22 オスプレイと異なり、特殊作戦部隊を乗せるためのものです。特殊作戦とは、敵地、それも敵対勢力が軍事的におさえている地域に侵入して強襲し、要人の暗殺や拉致をおこなうもので、軍事



作戦上、最も危険な任務とされています。そのため、夜間や山間部など複雑な地形であっても特殊部隊を投入し、回収しなければならず、訓練も過酷なものとなっています。敵レーダーを避けるため、高度 30~60m (10 階建てマンション程度。民間ヘリ 600m で飛行。) の超低空で飛行し、敵からの対空ミサイルの追跡をふりきるために、急上昇・急降下・急旋回を繰り返します。オスプレイはほかの軍事機と比べて事故率が高いと言われていますが、CV-22 オスプレイのそれは機体の重大欠陥ばかりでなく、こうした特殊作戦のための過酷訓練に由来しています。

広がる基地撤去の闘い

国道 16 号線を挟んで横田基地に面したフレンドシップパーク (福生市) では、横田基地の撤去を求める西多摩の会の主催で、毎月第3日曜日、午後1半からの2時間、座り込み行動を行っています。この行動は 10 年目、110 回を数え、



関東一円から毎回 100 人~500 人の方々の参加で広がっています。あなたも、ぜひ、足を運んでみてください。いろんな方のお話が聞けます。もちろん、あなたも発言できます。